家庭科教育〈総合カリキュラムと家庭科教育〉

家政学教室　米　川　五　郎

Ⅰ　家庭科教育の歴史

(1)　戦前　裁縫教育，家事教育　明治17年（1886年）女子教育として始められた。

(2)　戦後　家庭科，6・3制下で昭和22年（1947年）小学校では男女共修となる。

生活主義（生活重視型）
系統主義（教科重視型）　}　この対立あるいは，両者の間の往復運動は家庭科の中にもみられる。

Ⅱ　家庭科の特性

(1)　教科としての性格

①　細谷俊夫氏による分類

用具教科――国語，算数
内容教科――歴史，地理，理科
技能教科――図画工作，音楽
　　（体操，裁縫
生活教科――保健，職業
（課題教科）　（家庭，社会

②　蛯谷米司氏による分類

算数，国語――抽象的なものを対象とする
理科，社会――具体的なもの　〃
音楽，美術――表現的なもの　〃
体育，家庭――人間自体　〃

（その他，たとえば大野連太郎氏
　家庭――技術領域

(2)　家庭科の特性

（実践的性格
　総合的性格　　左のような二つの性格が主要なものである。

①　家庭生活
（・非合理的な面…家族どうし　（「保守的」な面…習慣，文化
　・合理的な面……家事など　　「進歩的」な面…近代化，科学技術

②　家庭科教育の課題

- 小学校，中学校，高校を通しての一貫性
- 教育内容の精選，体系化（とくに，児童の発達に対応した教育内容の精選）
- 男女共修の問題

Ⅲ　総合カリキュラムへの参加

たとえば，低学年「生活科」の試行では家庭科が，むしろCoreとなっている。

岐阜市立長良小学校では10数年の実践の歴史がある。

他の例としては

消費者教育の実践

生産・流通・消費の総合学習。

以上は，家庭科教育の立場から考えた例である。